

2022年度 第3四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2023年1月31日
日本ゼオン株式会社

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2022年度下期 事業環境
- P.26 2022年度 業績予想
- P.27 2022年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q3連結実績は対前年同期で増収減益、対前期で減収減益
- ◆ 原料価格は下落、為替は円安が進行
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大によるリモート・巣ごもり需要の一服継続

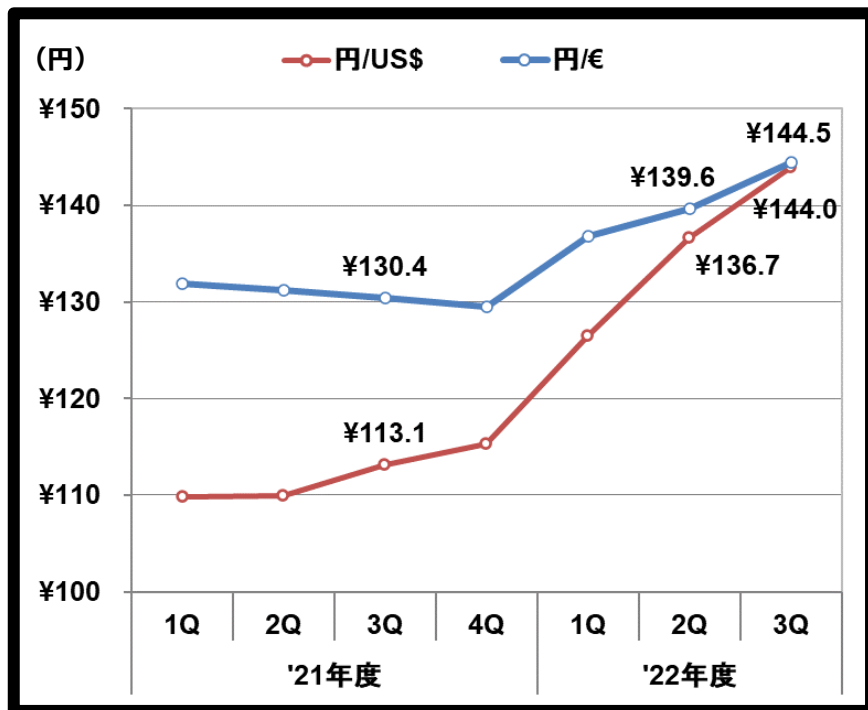
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 販売価格の改定によりYoYは増収、出荷量減の影響でQoQは減収
- ◆ エネルギー価格の高騰を受け、YoY・QoQともに減益
- ◆ 合成ゴムは主力工場の定期修繕のため、出荷量を調整

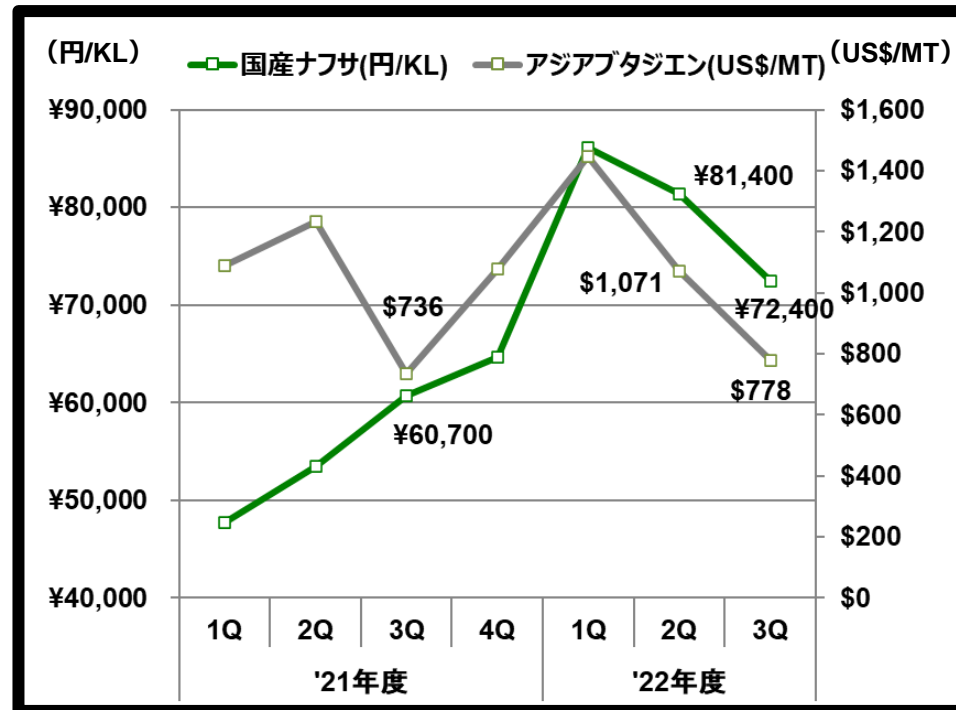
【高機能材料の概況】

- ◆ 光学フィルムの需要低下、トナーの在庫調整により、YoY・QoQともに減収
- ◆ 光学フィルムの出荷量減によりYoYは減益、光学樹脂・電池材料の出荷量増によりQoQは増益

【為替推移】



【主原料推移】



		2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥113.1	¥136.7	¥144.0	+27%	+5%
	円/€	¥130.4	¥139.6	¥144.5	+11%	+3%
主原料	国産ナフサ/KL	¥60,700	¥81,400	¥72,400	+19%	▲ 11%
	アジアブタジエン/MT	\$736	\$1,071	\$778	+6%	▲ 27%

※国産ナフサ：2021年度Q3及び2022年度Q2は確報値、2022年度Q3は当社見込値

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）**
- P.6 業績サマリー（セグメント別）**
- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異
- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要
- P.24 2022年度下期 事業環境
- P.26 2022年度 業績予想
- P.27 2022年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	対前年 同期比
	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	897	998	968	+71	▲31	2,688	2,942	+254
営業利益	115	95	77	▲38	▲18	364	278	▲86
経常利益	125	115	67	▲59	▲48	391	311	▲80
当期純利益	90	87	9	▲81	▲78	274	183	▲91

- 前年同期比 : 売上高 +71億円、営業利益 ▲38億円
- 前期比 : 売上高 ▲31億円、営業利益 ▲18億円
- 通期対前年度比 : 売上高 +254億円、営業利益 ▲86億円

注記：海外関係会社の2022年7～9月実績がQ3連結決算に反映されています。

(単位：億円)

【売上高】	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	490	579	559	+69	▲19
高機能材料	262	265	249	▲13	▲15
その他の事業、消去等	144	155	159	+15	+4
売上高合計	897	998	968	+71	▲31

【営業利益】	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	51	53	29	▲22	▲24
高機能材料	64	47	49	▲15	+2
その他の事業、消去等	▲0	▲5	▲1	▲1	+3
営業利益合計	115	95	77	▲38	▲18

(単位：億円)

【売上高】

	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	2022年度 業績予想 (10/31時点)	対前年 同期比	業績予想 進捗率
エラストマー素材	1,479	1,673	2,320	+194	72%
高機能材料	803	815	1,170	+12	70%
その他の事業、消去等	405	454	630	+49	72%
売上高合計	2,688	2,942	4,120	+254	71%

【営業利益】

	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	2022年度 業績予想 (10/31時点)	対前年 同期比	業績予想 進捗率
エラストマー素材	159	122	160	▲ 37	76%
高機能材料	204	165	245	▲ 39	68%
その他の事業、消去等	1	▲ 9	▲ 10	▲ 10	91%
営業利益合計	364	278	395	▲ 86	70%

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

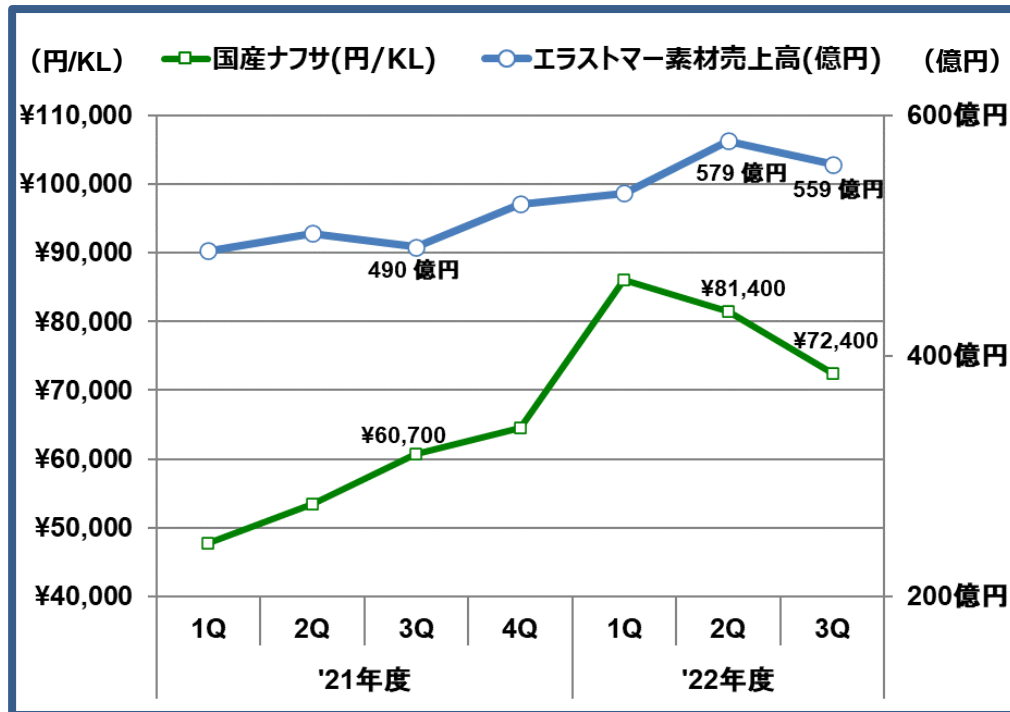
- P.9 **エラストマー素材 概況**
- P.10 **エラストマー素材 P/L**
- P.11 **エラストマー素材 営業利益差異**

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

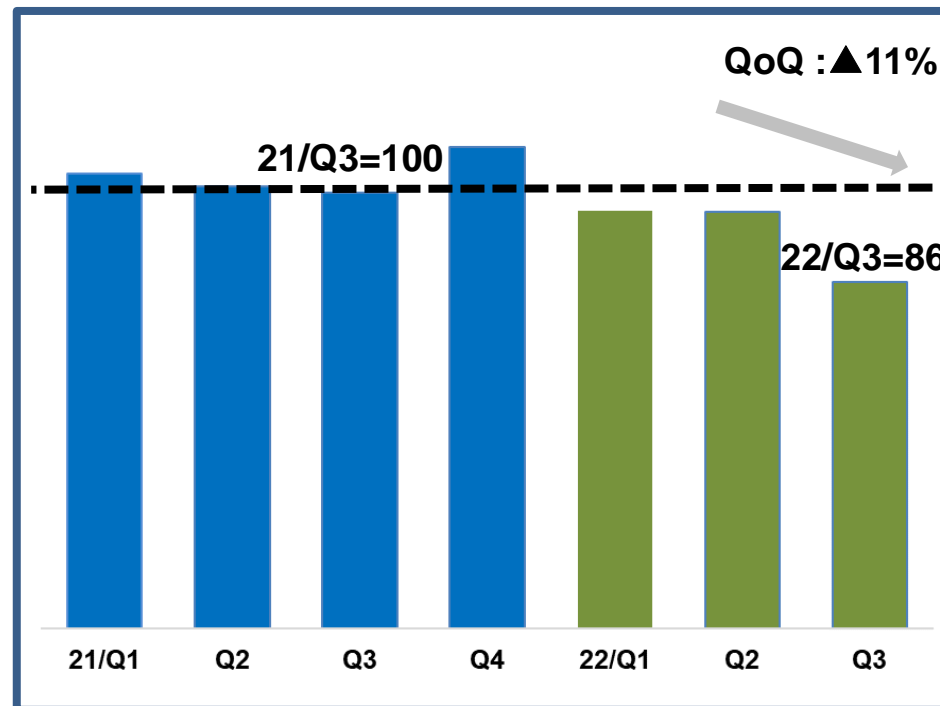
- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2022年度下期 事業環境
- P.26 2022年度 業績予想
- P.27 2022年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



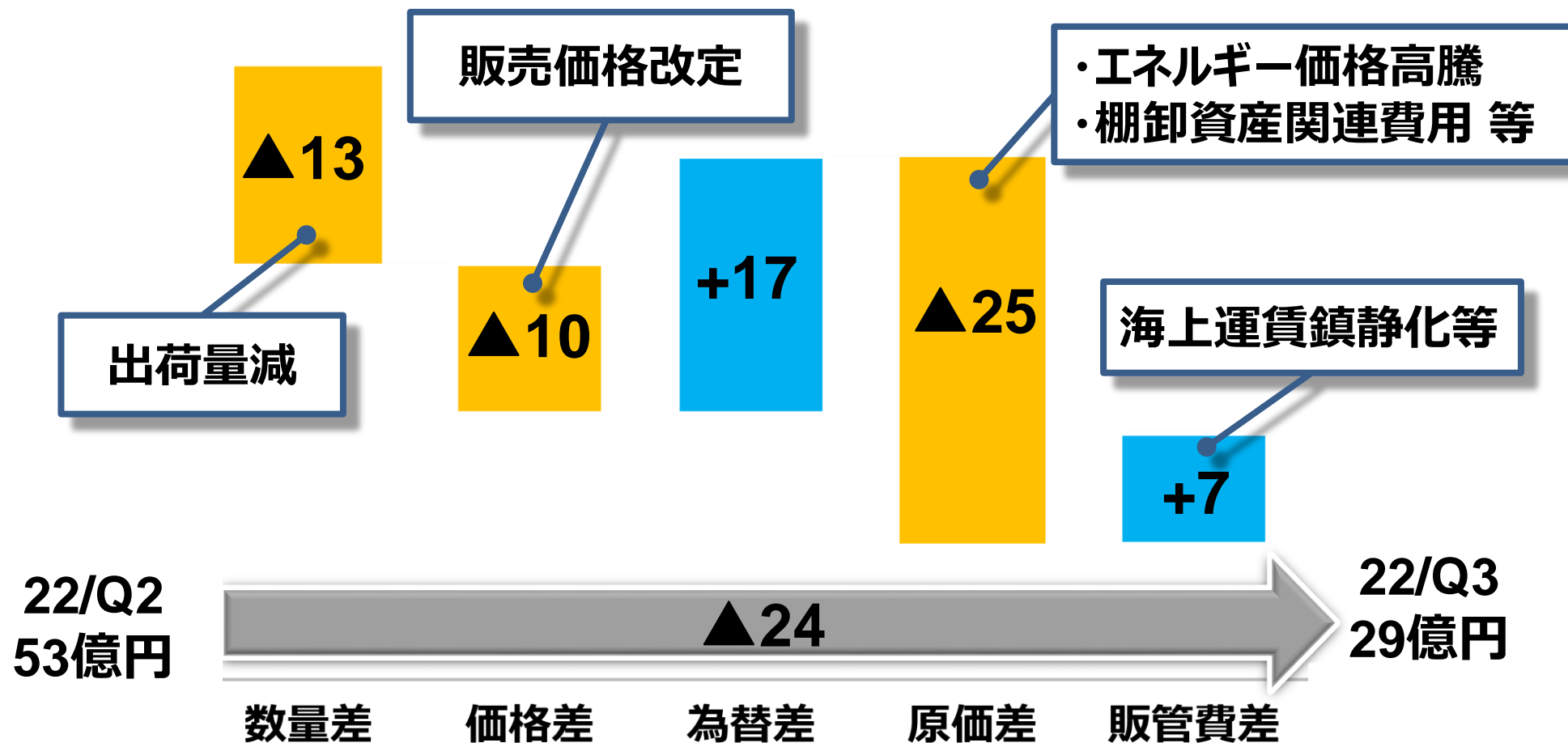
- 出荷減および国産ナフサ価格下落に伴う販売価格改定により、売上高は減少
- 合成ゴムは主力工場の定期修繕およびサプライチェーンの在庫調整により、YoY・QoQともに出荷量減

(単位：億円)	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (21/Q3=100)	100	89	78	▲ 22 pt	▲ 22 %	▲ 11 pt	▲ 13 %
合成ゴム	100	97	86	▲ 14 pt	▲ 14 %	▲ 11 pt	▲ 12 %
ラテックス	100	89	70	▲ 30 pt	▲ 30 %	▲ 19 pt	▲ 21 %
化成品	100	70	63	▲ 37 pt	▲ 37 %	▲ 7 pt	▲ 10 %
売上高	490	579	559	69	14 %	▲ 19	▲ 3 %
合成ゴム	325	416	413	88	27 %	▲ 3	▲ 1 %
ラテックス	55	43	35	▲ 20	▲ 36 %	▲ 8	▲ 20 %
化成品	103	108	98	▲ 4	▲ 4 %	▲ 9	▲ 9 %
その他・消去	8	12	13	5	64 %	1	9 %
営業利益	51	53	29	▲ 22	▲ 43 %	▲ 24	▲ 45 %
営業利益率	10%	9%	5%				

- **出荷量** : 合成ゴムは前掲、ラテックス手袋向け流通在庫過多継続、化成品販売価格改定の反動減で、YoY・QoQともに減少
- **売上高** : 円安および販売価格改定により、YoYは増加するも、出荷が振るわず、QoQは減少
- **営業利益** : エネルギー価格高騰により、YoY・QoQともに減少

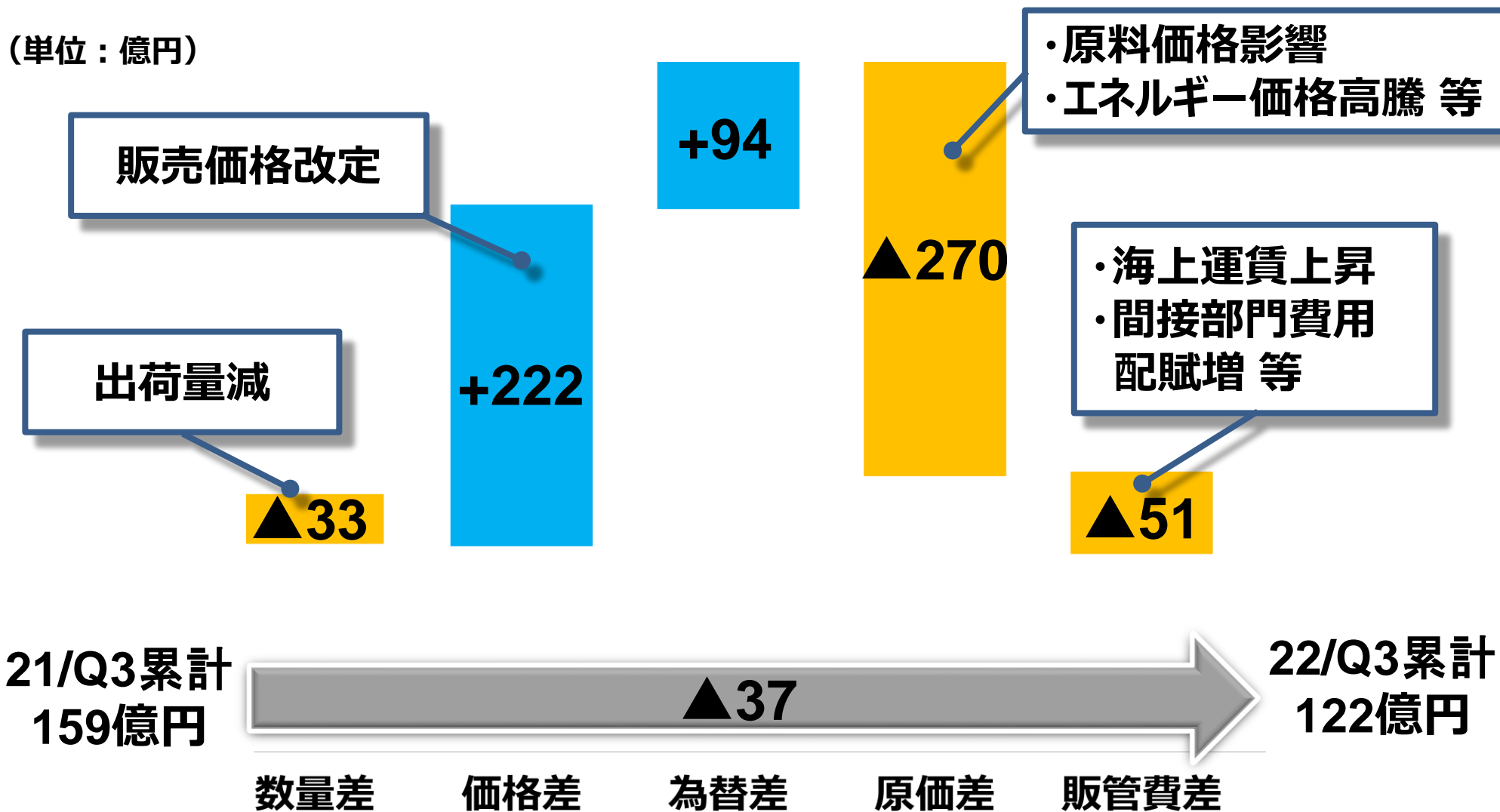
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 **高機能材料 P/L**
- P.15 **高機能材料 営業利益差異**
- P.17 **高機能ケミカル事業：電池材料の状況**
- P.18 **高機能樹脂事業：光学樹脂の状況**
- P.19 **高機能樹脂事業：光学フィルムの状況**

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2022年度下期 事業環境
- P.26 2022年度 業績予想
- P.27 2022年度 配当金予想

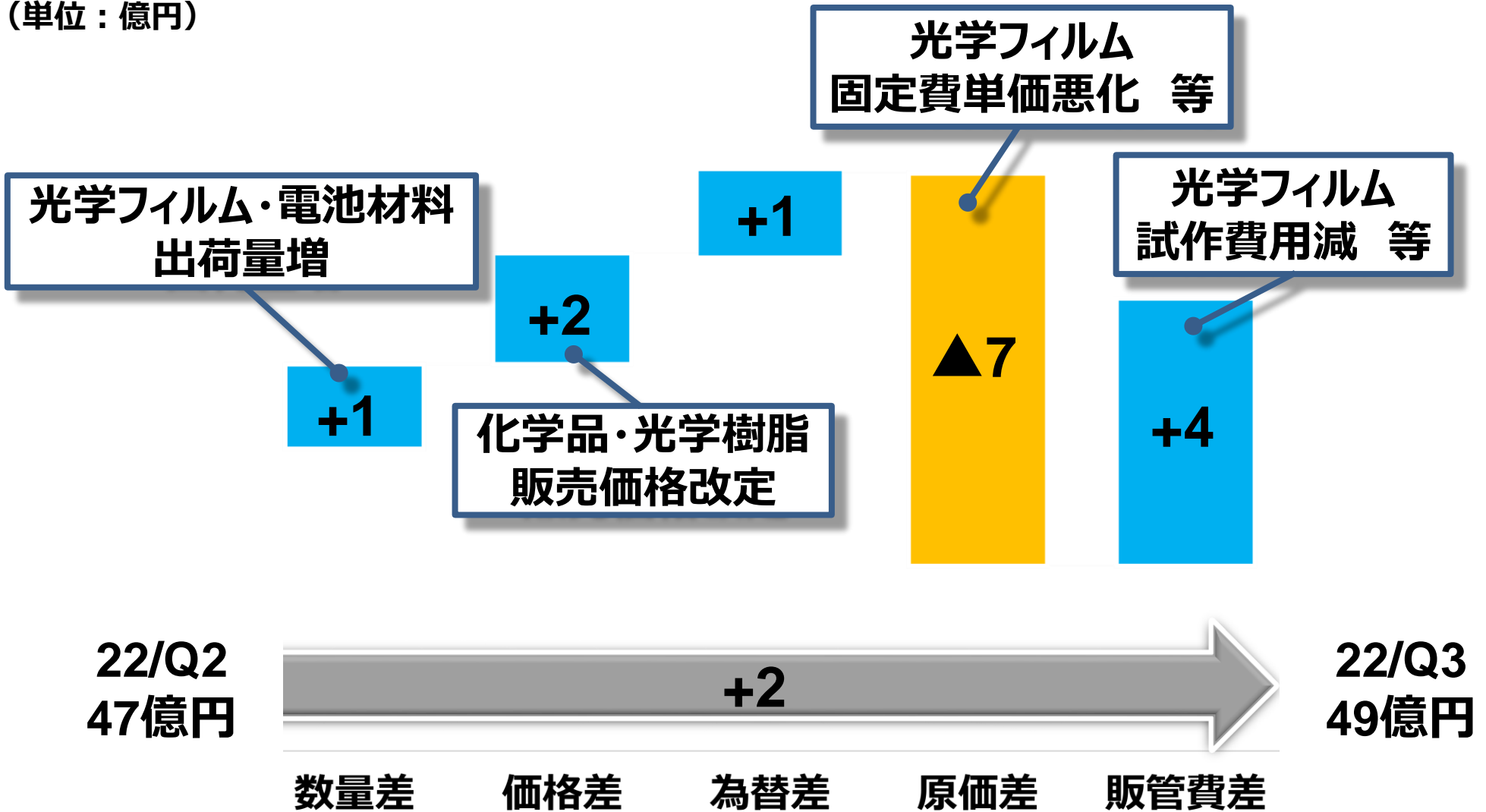
(単位：億円)

	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	262	265	249	▲ 13	▲ 5 %	▲ 15	▲ 6 %
※ 高機能樹脂	159	151	141	▲ 18	▲ 12 %	▲ 10	▲ 7 %
高機能ケミカル	90	102	96	6	7 %	▲ 6	▲ 6 %
メディカル他	13	11	12	▲ 1	▲ 6 %	1	6 %
営業利益	64	47	49	▲ 15	▲ 23 %	2	5 %
営業利益率	24%	18%	20%				

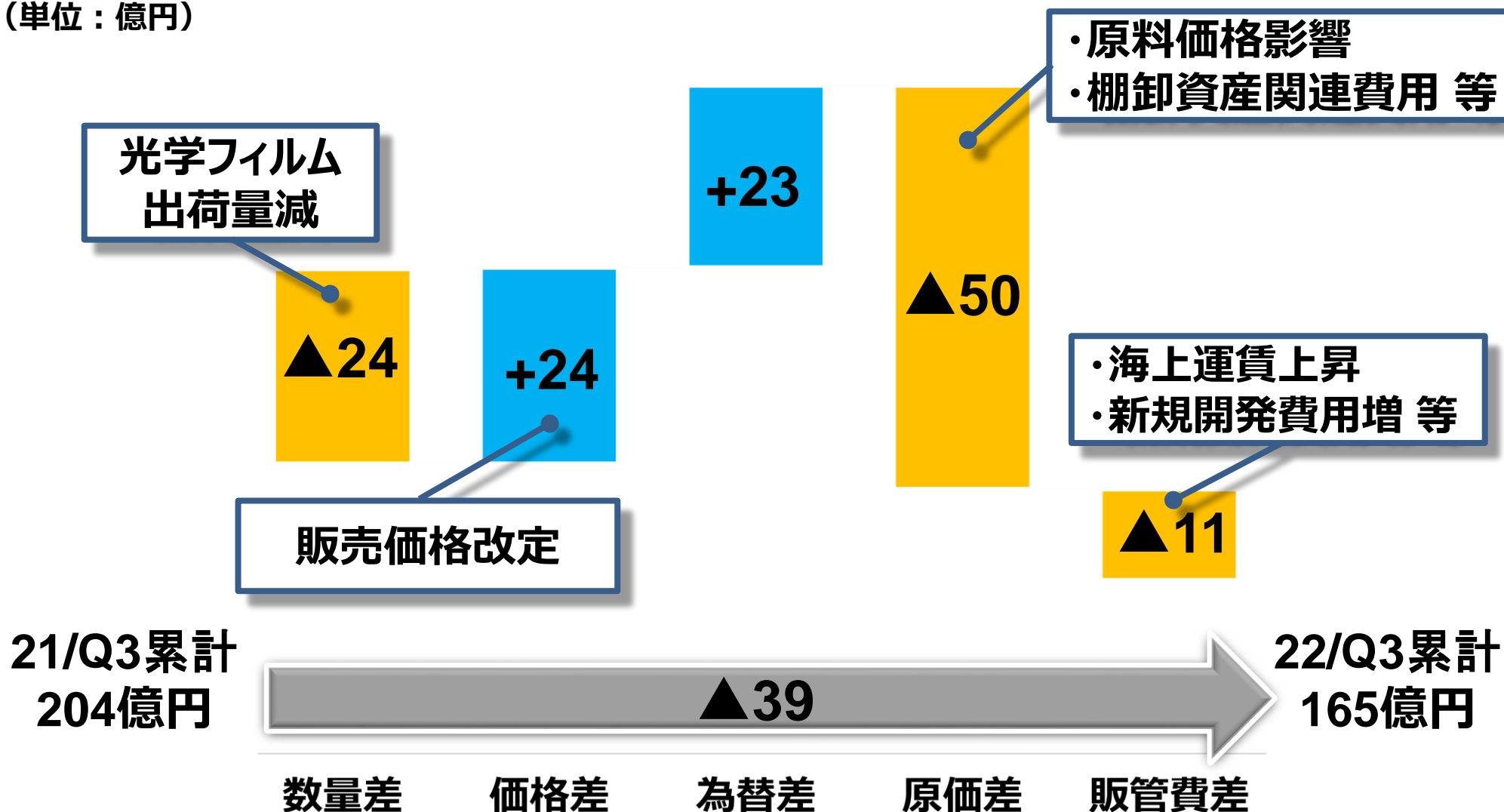
※ 高機能樹脂：光学樹脂、光学フィルム
 高機能ケミカル：電池材料、化学品、電子材料、トナー

- 売上高
- 高機能樹脂：大型フィルムは段階的な回復、中小型フィルムは出荷の端境期となり、YoY・QoQともに減少
- 高機能ケミカル：電池材料の出荷回復によりYoYは増加、テレワーク需要の一巡によるトナー出荷量減によりQoQは減少
- 営業利益は光学フィルム出荷減によりYoYは減少、光学樹脂・電池材料出荷量増によりQoQは増加

(単位：億円)



(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	120%	118%	128%
民生他向け	120%	197%	70%
全体	120%	128%	113%

- EV向け
電池メーカー生産稼働回復により、YoY・QoQ共に出荷増
- 民生他向け
モバイル端末向けは、中国春節に向けた出荷前倒しにより
YoY・QoQ共に出荷増

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	80%	107%	75%
医療その他向け	125%	78%	133%
全体	108%	85%	111%

■ 光学用途向け

新型コロナウイルスおよび経済不況による需要低下を背景に、出荷振るわず

■ 医療その他向け

欧米向けのまとめ出荷の影響で出荷端境期となり、前期比は減少するも、需要は堅調

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	83%	78%	90%
大型向け	54%	149%	64%
全体	60%	119%	69%

■ 中小型向け

出荷の端境期および需要低迷により、YoY・QoQ出荷減

■ 大型向け

2QTVメーカー部材調達停止から段階的な出荷回復
本格的な需要回復は23年度となる見込

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要**
- P.22 C/F概要**

- P.24 2022年度下期 事業環境
- P.26 2022年度 業績予想
- P.27 2022年度 配当金予想

総資産5,382億円 (+536)

【流動資産】 +380億円

- ◆ 現預金 ▲179億円
- ◆ 売掛債権 +105億円
- ◆ 未収入金 +101億円
- ◆ 棚卸資産 +329億円

流動資産
3,130
(+380)

固定資産
2,253
(+155)

【固定資産】 +155億円

- ◆ 有形固定資産 +67億円
- ◆ 投資有価証券 +79億円

【流動負債】 +309億円

- ◆ 買入債務 +171億円
- ◆ 短期借入金 +151億円
- ◆ 社債 ▲100億円

流動負債
1,696
(+309)

固定負債 249 (+7)

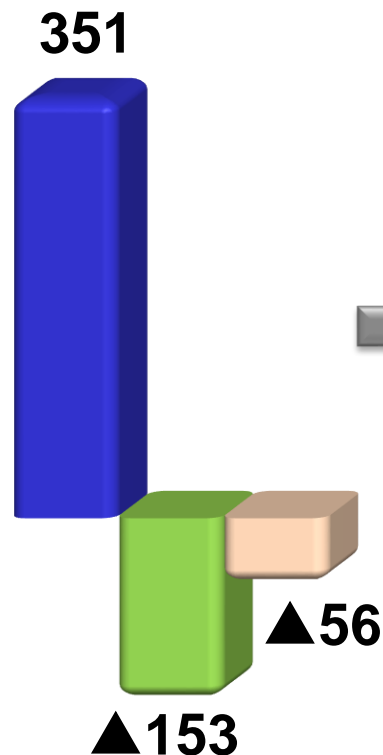
純資産
3,438
(+220)

【純資産】 +220億円

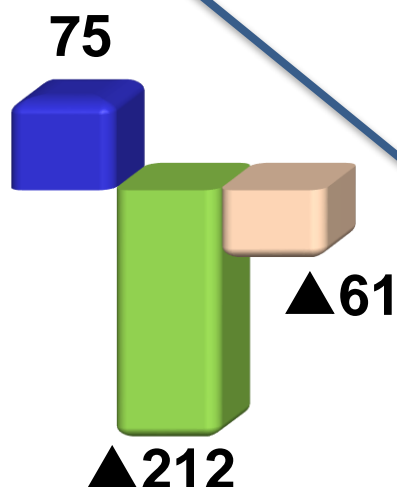
- ◆ 自己資本比率 63.2% (▲2.5)
- ◆ D/Eレシオ 0.07 (+0.01)

(単位：億円)

2021年度Q3



2022年度Q3



(単位：億円)

	2021年度Q3	2022年度Q3
営業CF	351	75
投資CF	▲ 153	▲ 212
フリーCF	198	▲ 137
財務CF	▲ 56	▲ 61
CF	143	▲ 198

- ・税前利益 +251億円
- ・減価償却費 +149億円
- ・棚卸資産(定修在庫増) ▲287億円

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.9 エラストマー素材 概況
- P.10 エラストマー素材 P/L
- P.11 エラストマー素材 営業利益差異

- P.14 高機能材料 P/L
- P.15 高機能材料 営業利益差異
- P.17 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.19 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.21 B/S概要
- P.22 C/F概要

- P.24 2022年度下期 事業環境**
- P.26 2022年度 業績予想**
- P.27 2022年度 配当金予想**

エラストマー 素材 (億円)	Q3		Q4		コメント
	売上 実績	営利 実績	売上 予想	営利 予想	
	559	29	531	▲22	10/31通期予想に対し、 売上高▲115 営業利益▲60
合成ゴム					原料価格下落・円高・海上運賃鎮静化 による販売価格の下方改定 サプライチェーン在庫積み増し終息
ラテックス					手袋用ラテックス需要回復の遅延
化成品					原料価格下落・円高・海上運賃鎮静化 による販売価格の下方改定 出荷量減回復の遅れ

※Q3動向は10/31業績予想に対する評価、Q4の動向はQ3末を起点とした当社見立て

- Q3 : 全体として事業環境は悪化
- Q4 : 事業環境は更に深刻化すると予想

高機能材料 (億円)	Q3		Q4		コメント
	売上実績	営利実績	売上予想	営利予想	
	249	49	235	24	10/31通期予想に対し、 売上高▲120 営業利益▲55
光学樹脂					光学用途は経済市況悪化で伸び悩み 医療他用途向けは総じて堅調
光学フィルム					大型フィルムの出荷回復遅延
電池材料					電池メーカー各社の生産計画の 下方修正に伴い、出荷量振るわず

※Q3動向は10/31業績予想に対する評価、Q4の動向はQ3末を起点とした当社見立て

- Q3 : 全体として事業環境は悪化
- Q4 : 経済市況悪化に伴い、出口製品の需要振るわず出荷量減を予想

(単位：億円)

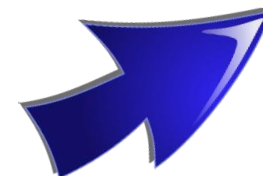
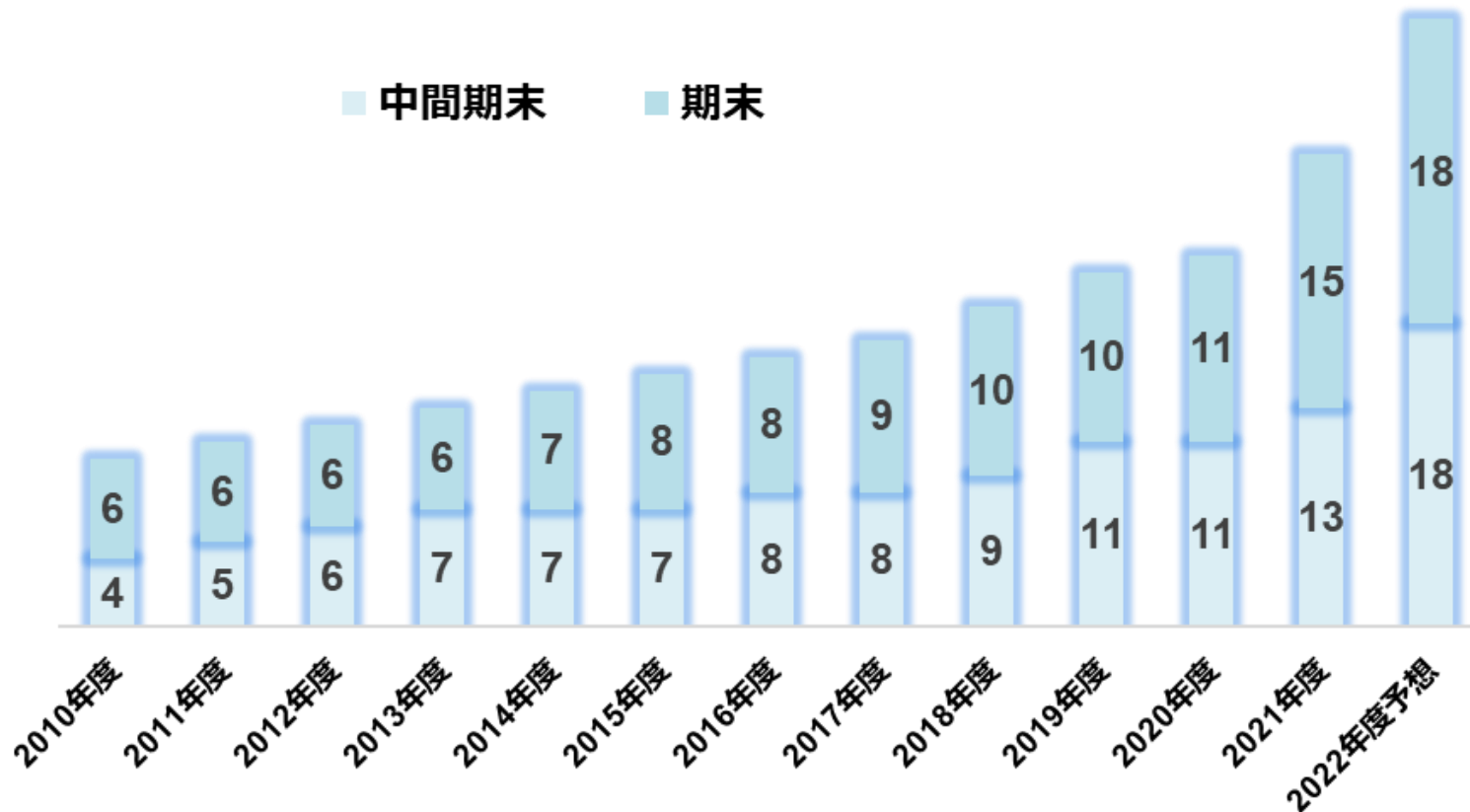
【売上高】	年間予想 (10/31時点)	上期	下期予想 (1/31時点)	年間修正予想 (1/31時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	2,320	1,114	1,091	2,205	▲ 115
高機能材料	1,170	566	484	1,050	▲ 120
その他の事業、消去等	630	294	321	615	▲ 15
売上高合計	4,120	1,974	1,896	3,870	▲ 250

【営業利益】	年間予想 (10/31時点)	上期	下期予想 (1/31時点)	年間修正予想 (1/31時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	160	93	7	100	▲ 60
高機能材料	245	116	74	190	▲ 55
その他の事業、消去等	▲ 10	▲ 8	▲ 3	▲ 11	▲ 1
営業利益合計	395	202	78	280	▲ 115

■ 年度業績予想を売上高3,870億円、営業利益280億円に修正

- ・US\$=130円、€=140円、国産ナフサ=¥66,400、アジアブタジエン=US\$873
- ・物流状況の改善は織り込み済

【配当金予想、単位：円】



安定的に継続的な
配当政策を継続
(方針に変更なし)

■ 当初予想を据え置く

- 2022年度の配当金は期末18円、年間36円を予想
- 対前年度比+8円、2010年度から13期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2022年度 本決算発表	2023年4月26日（水）を予定
中期経営計画 説明会	2023年6月7日（水）を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON

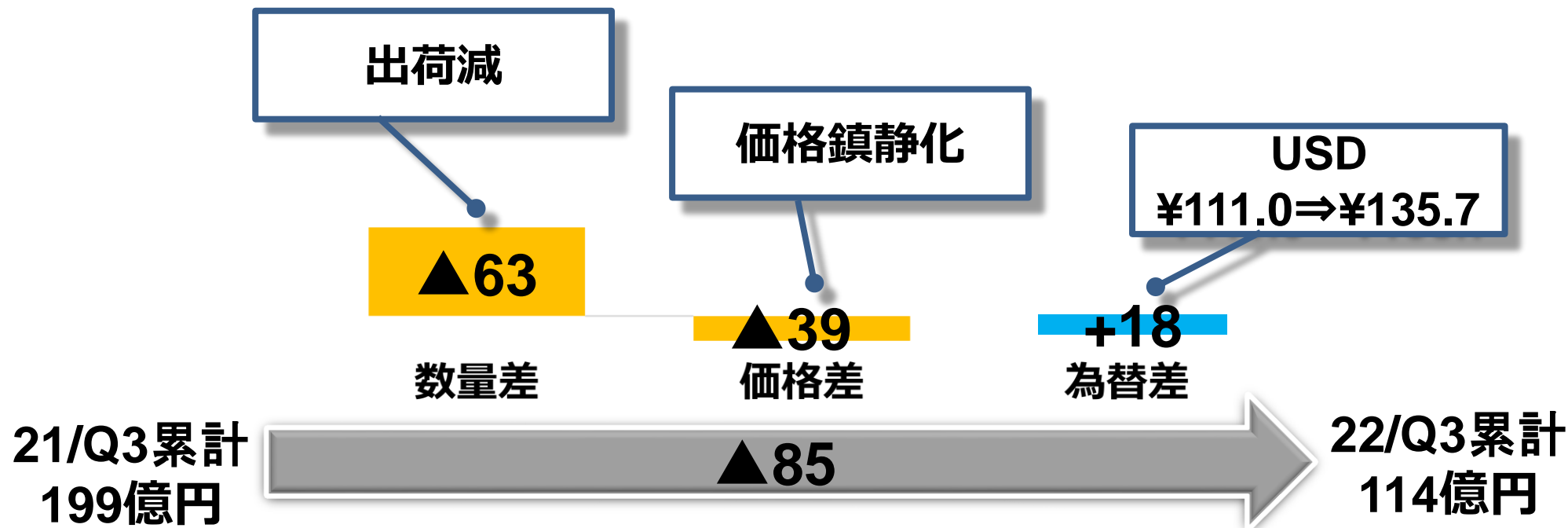
日本ゼオン株式会社

以上

統合報告書は[こちら](#)

参考：ラテックス 売上高差異（YoY累計）

（単位：億円）








	2020年度 Q1	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
--	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------	------------	-----------	------------

単価

21/3Q=100		100	85	88	▲ 12 pt	▲ 12 %	3 pt	4 %
20/1Q=100	100	187	162	164	-	-	-	-

				2022年度Q3 (2022年度Q2比)
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
合成ゴム				<ul style="list-style-type: none"> ・主力工場定修・サプライチェーン在庫積み増し終息による出荷量減 ・販売価格改定・海外連結期(7-9月)好調で、売上は横ばいとなるも、営利は減少
ラテックス				<ul style="list-style-type: none"> ・手袋向け流通在庫過多継続
化成品				<ul style="list-style-type: none"> ・販売価格改定による反動で出荷量減が継続し、減収減益

2022年度Q3 (2022年度Q2比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
光学樹脂				<ul style="list-style-type: none"> ・医療その他向けQ2まとめ出荷による端境期 ・品目構成差により増収増益
光学フィルム				<ul style="list-style-type: none"> ・中小型向け出荷の端境期、大型向け出荷回復 ・中小型向け出荷量減により減収減益
電池材料				<ul style="list-style-type: none"> ・電池メーカー稼働率回復および中国春節前の需要前倒しにより、出荷量増 ・品目構成差により売上は横ばい、営利は増加

用途	2022年度市況動向 (21年度比)		状況変化
	10/31 時点	1/31 時点	
大型TV			大型フィルム本格回復遅れ (22/Q4⇒23/Q1へ)
スマートフォン		10/31時点 から変化なし	—
タブレット		10/31時点 から変化なし	—
ノートPC		10/31時点 から変化なし	—

※2022年度市況動向は、当社予測に基づいた当社製品の21年度比販売見立て

アップサイド

物流コスト減

エネルギーコスト減

海上運賃価格の更なる下落

石炭価格の下落

国内輸送費の更なる下落

ガス価格の下落

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

新型コロナ再拡大

円高ドル安

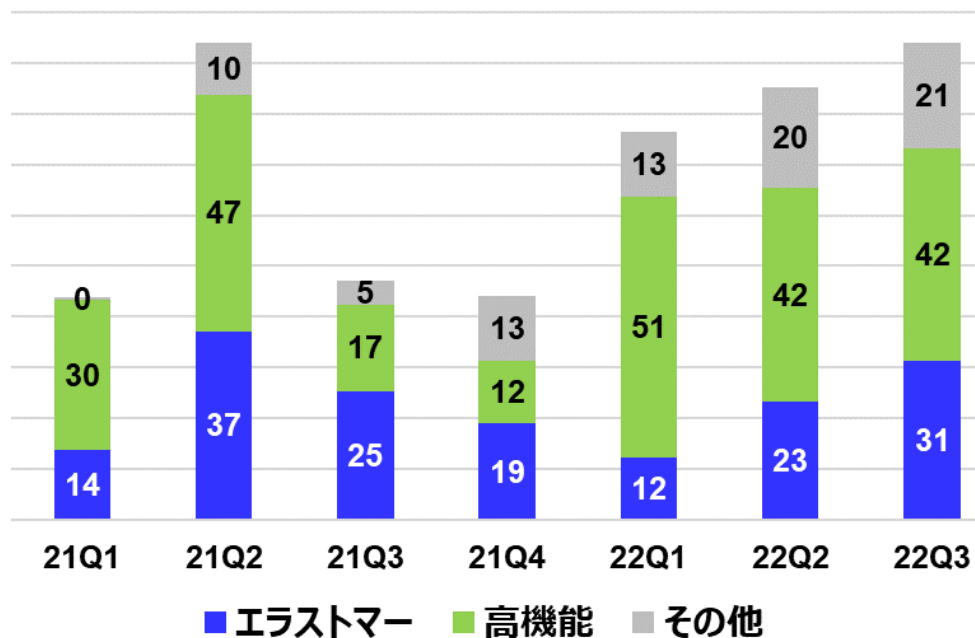
物価高・景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

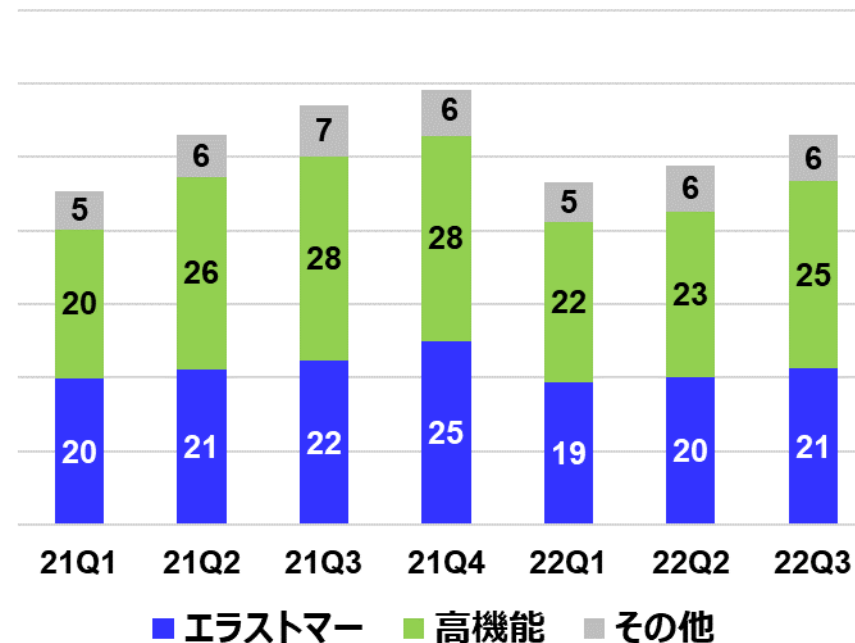


21年度実績
229億円



22年度予想
360億円

【減価償却費】



21年度実績
215億円



22年度予想
210億円